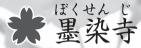
## 京都ようるのかく

## 和桜

春と言えば桜。京都には数多くの桜の名所があり、 その中には京都ならではの風情ある景観や、特有の 桜を楽しめるところがあります。今回は、そんな桜 の名所をいくつか紹介します。 (日和)



通称「桜寺」とも呼ばれるお寺で、境内には墨染の地名の起こりと伝えられる墨染桜があります。この桜は平安時代の歌人である上野峯雄が、当時の太政大臣藤原基経(昭宣公)の死を悼んで深草の野辺の桜し心あらば今年ばかりは墨染めに咲け

と桜に向かって詠んだところ、墨染色に咲くようになったと言 われています。

墨染桜は近年植え接ぎを行ったため今年は見られないかもしれませんが、染井吉野や御衣黄といった桜が咲き乱れ、風情ある建築物と相まって美しい景観を楽しむことができます。





「御室桜」と呼ばれる仁和寺特有の桜が有名です。他の桜の名所に比べ遅咲きで、1週間ほど遅く満開を迎えます。また、木の高さが低く $2\sim3$  m程度しかないため、目の高さで桜を楽しむことができます。

江戸時代から親しまれていた桜のようで 仁和寺や足元よりぞ花の雲 (春泥) ねぶさたの春は御室の花よりぞ (与謝蕪村)

など、数多くの「御室桜」に関する俳句が残されており、現在 までその美しさが受け継がれています。



## \* 平野神社

平野神社は平野妹背、手弱女、平野匂、衣笠、平野撫子、魁など多くの桜の品種が発祥した地です。特に魁は非常に早咲きで、この桜が開花すると京都の花見が始まるといわれています。

この神社は平安時代に花山天皇が桜を手植えしたことから桜の神社として栄え、江戸時代には公家たちが家の標となる珍しい桜を奉納したと伝えられています。

境内には非常に多くの種類の桜が植えられているため、さまざまな色や形を楽しめるだけでなく、長い期間桜を見ることができます。

